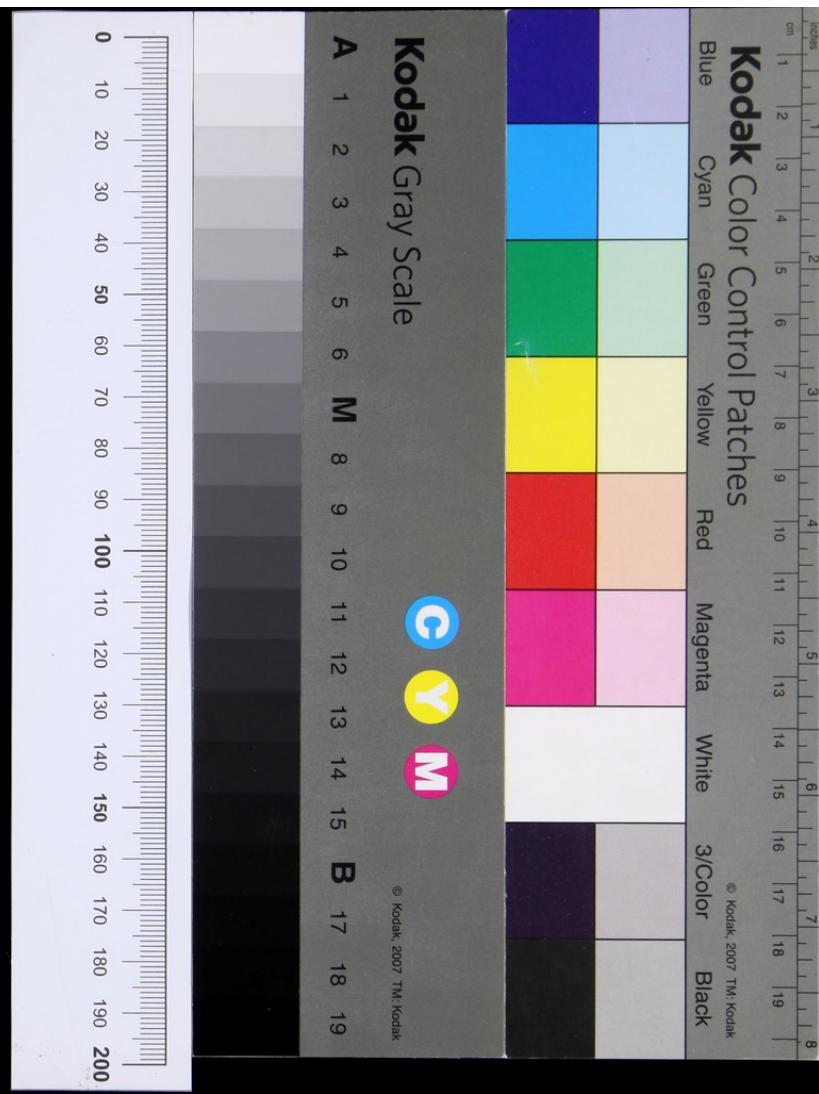
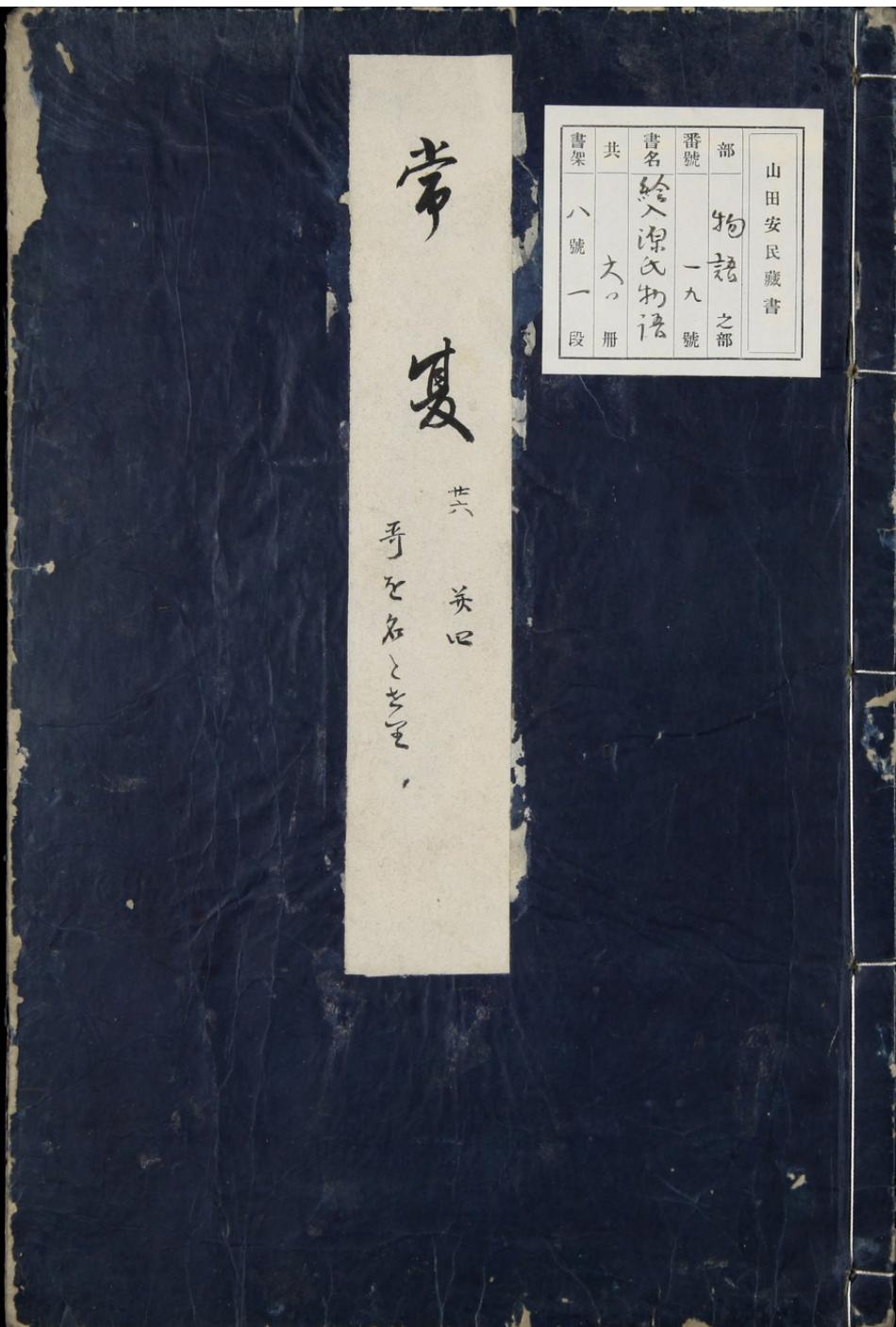


絵入源氏物語

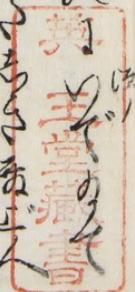
巻二十六 常夏

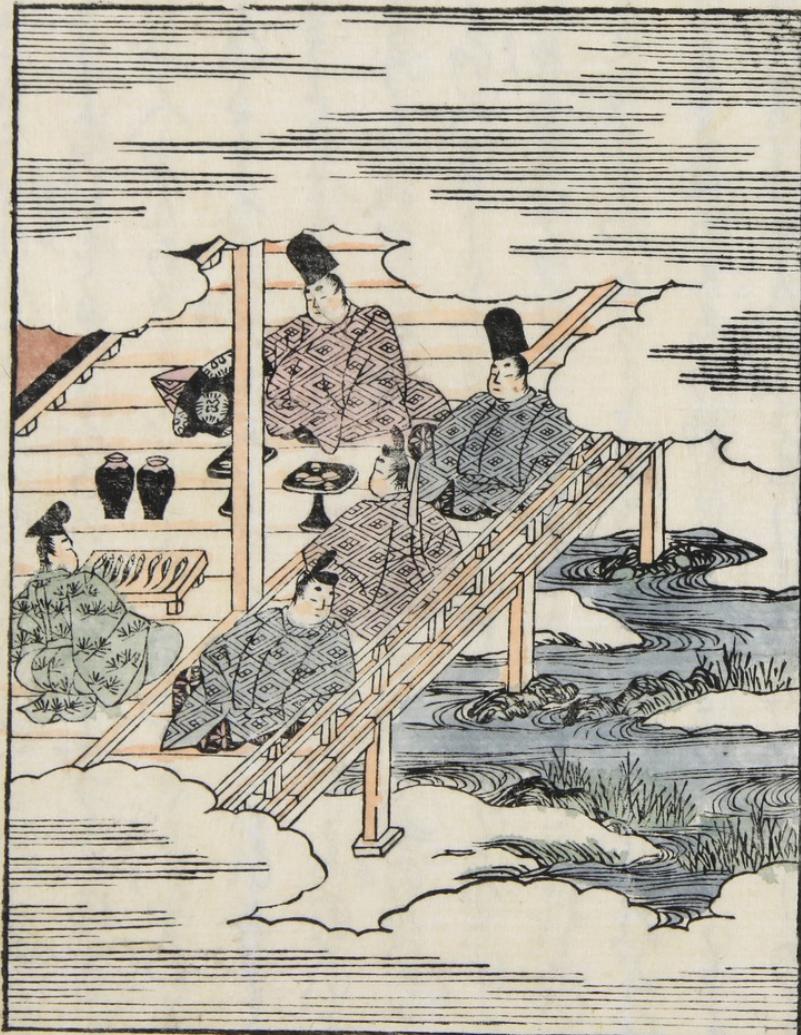
楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館



嘉慶廿六の六月のるる
 つぐわの日。ひのりのりとどれ
 す。うねのくもひのくもあくまく
 あくまくすくひて。川の桂河
 川のつがやのれ。ゆきへそくじく
 まいす。例のちのひんざら。中ねのれあくま
 あくまくすくひ。水のほり
 すくまくすくれみて。水のほり
 のくわく。すくまくすく。日のくわく
 つぐわのひくすく。日のくわく
 うくもの。日よかく。蝶のくわく
 うくげよかく。木のくわく。あくまくの





ノニ

あうきさくわじのつひゆうれんや
 て。うすくまくらう。おもひちどま
 す。じく。まくらう。うるい
 やびへりのと。ぐく。うんが。うび
 ひきうねはよ。うそと。まくまく
 せ。あんと。の。まく。うく。わく。
 わく。うく。うく。うく。わく。
 うびく。うく。うく。うく。うく。
柏木(オキ)あらはら(アラハラ)地
 あく。の。まく。うく。うく。うく。
 えん地(アラハラ)。まく。うく。
 うく。うく。うく。うく。うく。

うとくとくらう。おにやのあら葉を
ひうへべりきるの後のまかんがち
うてあんよぢてうそくわんと
ううだらややうやうのうそくわんと
まかん中のうそくわんひまわらりよ
まつて中ねどづくまくまくで、りびとを放つ
らうばーあまうて、おぬわくまくおうく
えーとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆく
みの娘をみる時、あれど
もと見ておいたまんじやうおおまく
あうあつておもて

うるまのわくらべのまへゆき
うりてよみかねてひるめばせと
うえびほのくろうそいとせとせと
うれどやまつづくうすこのうちよきめぐ
めうびのゆうかむくゆうゆうさんやあやま
山行ともの中よどみよめうゑもぐと
うれびさううてゆやすやくと思ひ入つれ
またそれうへまくとあるゆくとゆく
ひよまく心ひかへふくれまくと
ふとくふとくちをううあうあれどかあたが
あまびるまごとさんのおみやげのくじ

もよそにそれを見ゆるやうである。
されどその中よりちやうとうにあらん。
ひよどりのくせんはうとうとあらん。
こゝからがむかへくせんありては地に落わんを。
この落葉
この落葉で、わざわざやうやうする。まことに
風さんやうさんめの上にござれま
うちかやうござのこそあらう。さうともつおつ
く経てて、うべまたひき経てて、
ひきくいづまゆううめく。これとくぬいと
わやうぐれとがやのれりうれきりうれ
このとくとくいきくせん。すくおとけひき

原
久
留
一
年
之
間

まことにこのとくはうなぎのすじの
うねりと人やうごめのうねりのうねり
うねりと人やうごめのうねりのうねり
うねりと人やうごめのうねりのうねり

まほりとまのべとまのうのとまかに
ねむりか。この内ととのみうけられ清
やすめ地とまくわいとまづく。
まよわいとせの人のそよひんとのう
うへとせじとめとて人のれとせ
うへとせじとめとて人のれとせ
うへとせじとめとて人のれとせ
うへとせじとめとて人のれとせ

ワガ身のうきひのうりはとくられ、えん人を
あむるやう申すうてびりんすゑうそ。何乃其が
行うけさんとくわくもあらぬ御みのまゝの
かぶかくてさうるへども、ゆゑどもとぞと
そづくめば一もうよじくめうて、いわ
ちわうどもやゆうてうつし、うてゆくうちれ
ゆざまひもくつはざひともあんやうよひもく
そそも、まじまじとせばせめりもあうされど
ううきて、がくまうとまくふ、今へんこくをへ
ゆるまへとつりて、うやうよまれとくと
せんじゆくとくとくとくとくとくとくとくとく

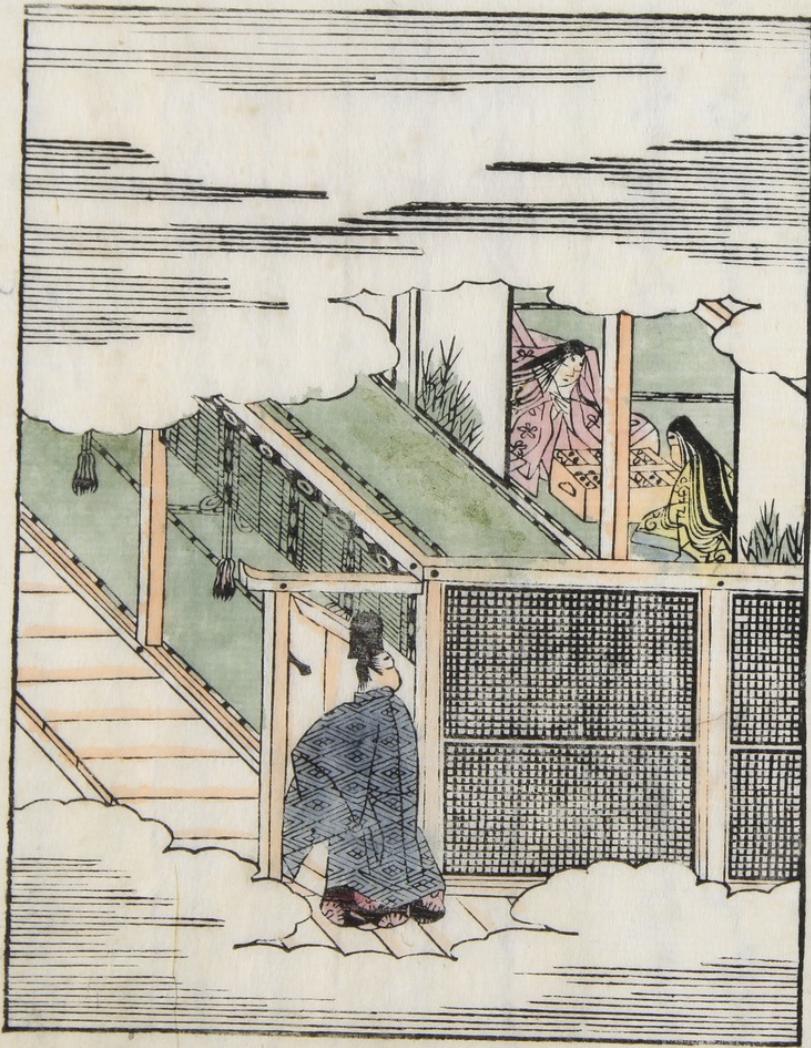
おとこちのきのくらひのとくにまとうて
 おどりの音やこれうきおとくあふくらへ
 けとの音がねれうの音よせへりかへも
 ゆくともあきけの音あくあくうるんや
 音のやうくづく心とくの音ワグ
 とかくびうりとくあくとあんべくとく
 わうとくべづとくれもくわくのゆひ
 すくちよぐうの音のゆくとくとく
 人のうれえとくあくせあくれもくす
 さくとくれれりとくとくは年ば
 そくうくとくのうもつすこのゆく

すくのくらひの音あくきぬよがくとく
 くくふじとくとくとくとくとくとく
 やつとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくのゆとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく



のよしむらちあうせぬよ。りひがくすらうみうらうじよ。
のよしむらうわへあうらうどんばへへて。おれのまよ。
うれいきよつとせん。うぐくくくん。とくよくはがい
くくくの女房ちどくで。りくまとをへきを
きくのんざく。うきひとぐのこくうさうへ。
あつまき経そ。うくわあへつけきやうありと。うく
のうきくくり。うきくりくとくのがよひゆん。
中持うどんのうくわくとくのゆううんのくくよ。
うえもとうくわくうくとくのゆううんのくくよ。
うえもとうくわくうくとくのゆううんのくくよ。

風へうきのむぢりへげへかへて。つまうて
そぞろ地のちくへき風みて。面白ひ梅志
志のひけみくらう。あまばけきくのうかの
うげの風（さきがへ）をくらそへ。まもあけとこ
まう経（えき）中（なか）のうだいへ。うらつまくのす
まくわくよどみ経（えき）も。うめくびのう人のれがほく
れやうへはる（はる）のうめく。うづくまくのう
のうきうればすれうく。うくまくのう
のうきうればすれうく。されうく人のあかとすく
うちぬ（ぬ）をいもくらまく。うきういきう
きうくまく。あれうくと

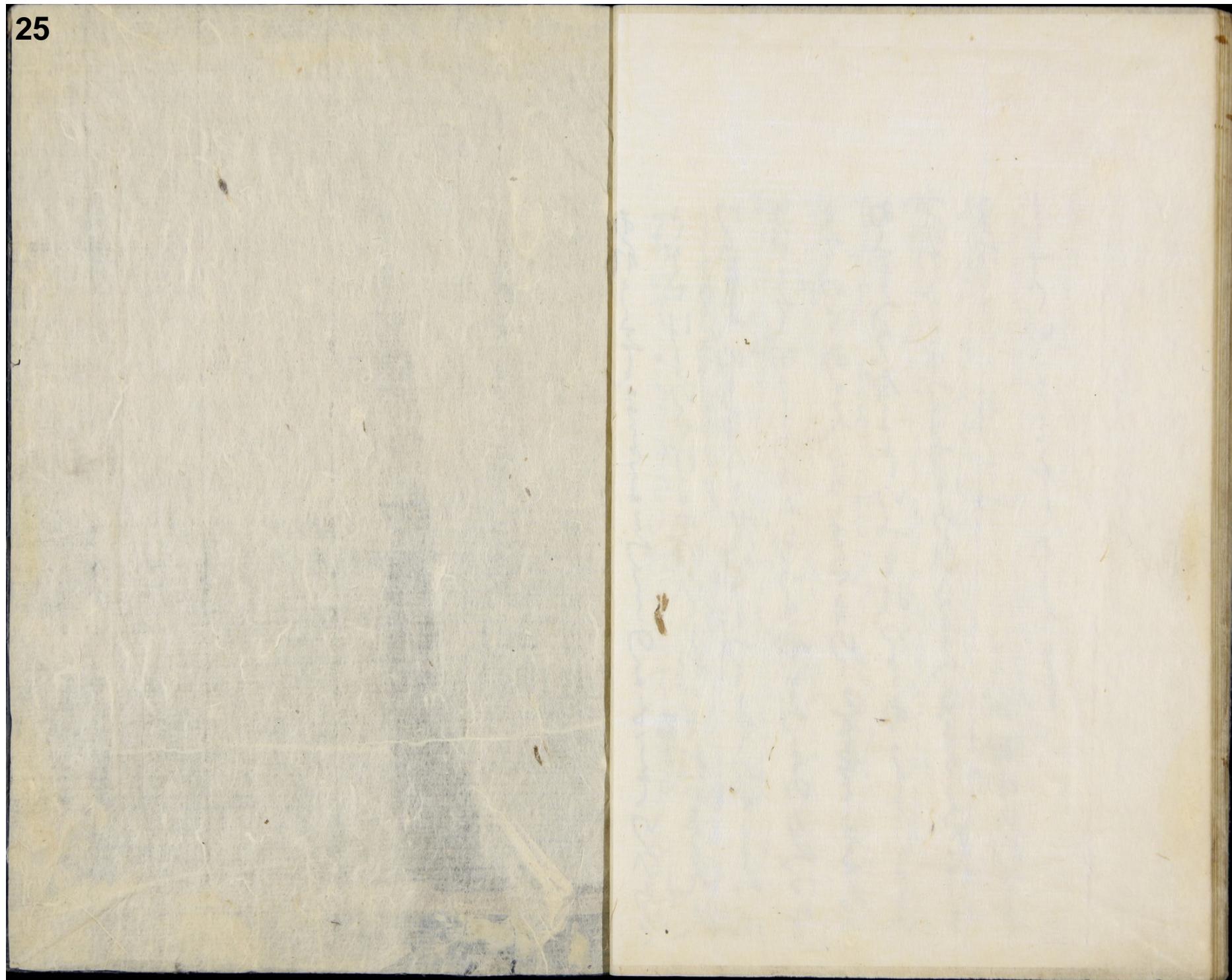


ます。すこしうづれば、うかうかとおぼして、
やがて、かりうちで、うかがひうの筋道をたどり、
あんまりれあへまよへり。法の筋筋。
そくから、うとうの筋道をもとめます。
ちやド、ただとくらみの中も、じくとくらみ
ゆくへく。筋やうとうの筋へく。さばう筋も
へくとくらみの筋をもとめます。筋筋いへく
せんざんへくらみ筋へくまゆれば、筋筋いへく
日あらわづれん。いへくは、のうへ
内也へふられば、よきもの筋すくつう筋ね
はく、四筋へほくちの、づくさきて、うらじくらみ筋
よも、ひいあくさくらみ筋ひあくを、見をくら
くらみて、うやかれりで、あくづれり、うりう
れうう、あやまきこ家ひぬけり、く
の、くまへば、えきう、あまう、くまくま、くづげ
きをがくすく、うらもくらもやの、くまへく、くん
くく、くづれ、生れ筋ひまくと、よも、うあく、や
れいの、あいの、人の、うくとやがう筋、うがう筋、
いまだひあくらう、じうまぎれそ、あくやう
あくべき筋もくとあられとくく、うがう筋、うがう筋
うがう筋、うがう筋、うがう筋、うがう筋、うがう筋、

國とやすくまをめづるとあんまりとせし
望むつべしこれどあかくらへやとて
ひがうみくにゆきよだまゆるやくれよよまづり
えくふまくらうばくゆくとゆうやゆく
りくわくあらまくにれをばくをみて

卷之三

草ワニひづちのノノのいじめうへそ
あひえんぬこの渦流よるがくらみのくわきまきもくくわきまきもく
ひくつむよ。アヘキテガチヨ。ハルウテの。そ乃
すぢをとどめば、うらうらうらうらうらうらうらうら
あくよ。アヘキテガチヨ。ハルウテの。そ乃



26

